

公益社団法人 全国愛農会

【2016年1月1日～2016年12月31日 事業報告書】

2016年度総括（村上新会長より）

3月に愛農会70周年記念事業があり、多くの方の参加を得て、今後の愛農会の方向性を共有することができた。続いて行われた総会において、愛農会会長に指名された、村上が愛農誌5月号に所信表明と新体制の方針を掲載し、愛農会の新体制への移行の年となった。

- 1) 今年度は愛農会の逼迫した財務状態と新体制になったばかりということで、活動を担う理事が愛農会の状況を把握し共有できる環境を整えることを優先事項とする。
- 2) まず、情報の共有と決定プロセスの透明性を確保にし、事務局、理事が愛農会の現場を理解できる体制を作る。
- 3) そのために、管理システムの整備と可視化を得意とする田中氏に事務局に加わってもらい使いやすく、分かりやすい会計システムと会員情報システムの整備を進める。
- 4) 毎年行われていた大学講座を今年度は休講することにした。年々、受講生が減少し、財務状況も良くないこともあるが、愛農会の活動において、もう一度大学講座や講義などの現代的な意味と役割を根源的に問い直すことをした。
- 5) 各講座に関しては、それぞれの部門が実施のイニシアティブを取る方向性を取り入れた。

この一年の活動全体の方向性としては、ゆっくりであるが、少しずつ理解が深まり、具体的成果を上げつつあると認識している。愛農会にとって会員の増加が財務、および、活動にとって最優先事項であるとの認識が共有されているので、来年度初頭の最優先課題はその具体的方策の実施からはじめてゆきたいと考えている。

営農・就農事業

（事業）

1、農の真使命を自覚し、愛農精神をもって農業を担う人材養成

【実施した事業及び評価】

1-1 愛農講座開講

期日・2016年8月18日～20日

会場・愛農学園

参加者・5名（専攻科生）

講師・村上真平、岩崎吉隆、飯尾裕光、江端貴の各氏

当初、第126回愛農大学講座として開講する計画であったが、その後の教育部企画会議で、内容・期間ともに見直しを行い、2泊3日の短期の講座となり、さらに広報のおくれから、結果として愛農高校の専攻科生を対象にした講座となった。

1-2 あいのうこども自然学校

期日・2016年7月16~18日

会場・愛農学園

参加者・22名（小学校高学年）

講師・鈴木栄、近藤伸二、野呂由彦・千佳子、奥田美和子、直木葉造ほか

今年度に於いても、申し込み希望者が多く、お断りをせざるを得なかった状況。愛農高校PTA（51-53期生）保護者と先生方の協力を頂いた。

これまで2回にわたり文科省の「子どもゆめ基金」を活用させていただいたが、今年度は参加者の参加費だけで企画・運営を行った。結果的には補助金申請のための煩雑な手続き・報告が省略され、必要以上の出費を抑えることによって、内容・収支共に当初予測の範囲に収めることができた。

ただ実働メンバーとしては主に愛農会、高校、保護者会という三者で行っているのので、早い段階から連絡を取り合って準備をすすめるべきだった。

1-3 愛農高校との連携

生徒・保護者に向けて、愛農会及び愛農運動の理解と協力

「小谷記念会」

テーマ・「小谷純一の国際交流、その実態と展望」

体験報告・奥田信夫、村上真平、山本和宏

期日・10月8日

会場・愛農高校

参加者・教職員、生徒、会員ほか約130名

愛農高校・愛農会共催

正農会40周年に参列するために6名の者がホンソンに出向いたが、その時にホンソン郡ムンダンリに展開する「持続可能な農村協同体のためのムンダンリ百年計画」の状況を視察することができた。その時の報告を上記の3名の者で行い。本会が標榜する「千年続く村づくり」について話し合うことができた。

1-4 愛農農業の実施

愛農高校の授業として実施、2年生2単位・3年生1単位

担当は村上真平、山本和宏

持続可能な農業の重要性、自然環境における農業の多面的機能について、農山村の役割と意味について、愛農会の就農支援事業について伝えている。

1-5 小谷記念コーナーの企画・展示

小谷純一の遺品・音声・映像の収集と整理・保存。

さらに70周年に向けての小谷に関わる資料収集を行う予定だったが、本格的な収集はできず、継続して展示のみとなった。

2、農業を基盤とする地域社会づくりを推進するための研修事業

定款の理念にある「愛と協同の理想農村建設」を「千年続く村づくり」と表現して、農村が永続的に維持するためには何が必要なのかについて考え、実践するための地域づくり村づくりセミナー、研修会等の実施。

【実施した事業及び評価】

2-1 シンポジウム&あいのうフェス

～それでも私たちは種を播く・千年続く村づくり～

期日・3月12～13日

会場・シンポジウム 青山ホール 約200名

あいのうフェス 愛農学園 約400名

基調講演・山下惣一（農民作家）

赤池 学（UDI所長）

愛農会創立70周年という大きな節目に合わせて開催された。2014年9月2日に第1回実行委員会がもたれ、以降毎月1回準備会をもって備えられた。

上記のメインテーマについて愛農会員だけでなく、幅広く多くの方々に、真剣に考えていただき、今後の課題を与えられた。

3、持続可能な農業経営・技術・暮らしの研修事業

有機農業の研修・普及。生活改善・省エネのための研修・普及などを推進してきた。

【実施した事業及び評価】

3-1 農産加工集中講座

期日・12月3～5日

会場・愛農学園

講師・葛原正之（土の香工房主宰）

鈴木 栄（この指とまれ農場）

参加者・12人

今回も米麴、醤油麴づくりをメインにして、2泊3日浸食を共にして、幅広い加工・自給体験をしていただいた。盛りだくさんなメニューもさることながら参加者同士の出会いが良かったという声が多かった。

3-2 共生社会をめざして トークライブ

期日・11月13日

会場・愛農高校森館

講師・エップ・レイモンド、荒谷明子（メノ・ビレッジ）

参加者・約45人

愛農高校の収穫感謝祭にあわせて開かれた。生徒・先生・保護者にとどまらず、外部からも参加者があり、真剣な学びとなった。

3-3 大地の再生講座

第1回 大地の再生講座

期日・9月9～10日

会場・愛農学園

講師・矢野智徳

参加者・44名

第2回 大地の再生講座

期日・10月9日

会場・愛農学園

講師・矢野智徳

参加者・25名

第3回 大地の再生講座

期日・11月25～26日

会場・愛農学園

講師・矢野智徳

参加者・30名

杜の園芸の矢野智徳氏を招き、フィールドワーク形式での講座を行った。愛農高校の保護者、農業者含め、多様なバックグラウンドを持つ方が集まった。遠方からの参加者も多く、3回併せて100名ほどの方にご参加いただいた。

4、人材養成と地域づくりを推進するための普及・啓発事業

【実施した事業及び評価】

4-1 月刊「愛農」誌の発行

毎月1100部印刷、900部発行 A4版30ページ

今年度4月号から表紙の裏表をカラーに切り替え、冊子を無線綴じにした。読者の反応は良くなった。ただそれが購読者増につながられていないところが課題。

4-2 京の山奥バーベキュー婚活 at 雲の上のゲストハウス

期日・10月23日

会場・京都府舞鶴市西方寺 「雲の上のゲストハウス」

参加者・17名

今年度新たに取り組んだ企画で、若手理事が中心となって行った。20名近くの参加者が集まり、地域づくりを目指す土地での企画実施を今後とも推進する意味で有意義な取り組みとなった。

5、国内外から農業研修生受け入れ支援

【実施した事業及び評価】

5-1 貸与奨学金の返還

今年度においては貸与奨学金の返還はなかった。

5-2 奨学資金の確保

特別な取り組みはできなかった。

6、農業・環境・平和に寄与している国内外の諸団体との交流並びに提携

【実施した事業及び評価】

6-1 インドスタディツアー

期日・第1回目 2016年3月2日～10日

参加者・10名

今回は社会人から高校を卒業したばかりの方まで10名が参加した。インドのアラハバード県にあるサムヒギンボトム農工科学大学継続教育学部に滞在しながら、同校の取り組みを通してインドの農村の現状などについて学んだ。（愛農誌5月号より中西泉）

期日・第2回目 2016年9月に予定していたインドスタディツアーは最少催行人数に達しなかったために実施できなかった。

6-2 韓日平和交流会

今年は愛農会創立70周年、正農会創立40年を迎えた。昨年行われた済州島での韓日交流の時、両者の話し合いで、通常の韓日平和交流ではなく、お互いの大きな節目である記念会に相互に祝い学び合う機会にすることになった。

〔愛農会70周年記念会〕

期日・2016年3月12～13日
会場・青山ホール、愛農学園
参加者・韓国より7名

〔正農会40周年記念会〕

期日・2016年8月28～30日
会場・ホンソン郡ムンダンリ プルム農業高等技術学校
参加者・日本より6名

それぞれの記念会に合わせて相互訪問を行い交流を行う事になった。交流の形としては変則的ではあったが、発会のルーツを小谷純一にもつ兄弟組織というべき存在だけに大事な節目を祝い合えたことは意義あることだった。

日本側としては今回ムンダンリに展開する「持続可能な農村協同体のためのムンダンリ百年計画」の状況を視察することができ、その後にかかれた「小谷記念会」で報告することができた。

6-3 AFA (アジア農民の会)

期日・3月12日 あいのうシンポジウムに AFA事務局長エスター氏を招待。
(エスターの渡航費と滞在費は故・矢谷理事が負担)

国際部分科会の報告者としてアジア農業の現状についてお話をいただいた他、夜の交流会ではお祝いの言葉をいただいた。

期日・8月3日 AFA理事会 8月5日 AFA総会
開催地：ベトナム
参加者：村上真平会長・飯尾裕光事務局長・三宅亜紀理事

愛農会・村上会長が議長を降り、かわってネパールのNLRF・リアム氏が就任
メンバー団体の主体的な参加を促すためのシステムとしてマネージメント・コミッ
ティ（運営委員会）を創設することを可決
ラオス・インド・タジキスタンで活動する3団体に加え、長くオブザーバーとして
参加してきたベトナムのVNFUを正式なメンバーとして承認。アジア15カ国、19
団体が参加するアジアの農民団体となる。

12月3日～4日 AFA理事会

開催地：マニラ
参加者：村上真平会長・飯尾裕光事務局長

飯尾氏は理事会の前日（12/2の夜中）にマニラを発ち、理事会は欠席。飯尾氏が代表を勤めるユースグループの戦略計画をメンバーと練るための渡航であった。

6-4 インターン受け入れ

- ① 実施期間：2016年8月8日（月）～9月10日（土）
- ② 目的：台湾国立ピントン科学技術大学でアグリビジネスマネジメントを学ぶ
大学院生3名参加。
- ③ テーマ：日本の有機農業及び流通について学ぶ。
- ④ 主なプログラムと評価
愛農が丘を拠点に、座学・農場実習・視察旅行などのプログラムを通して日本の有機農業全般について学んでいただいた。
- ⑤ 次回にむけての課題
反省点がまとまった時点で担当教授と共有しているが、学生に対するフォローアップが行えていない。

7、農産物及び加工食品等の認証

【実施した事業及び評価】

○新規認定件数：11件（2016年1月1日～2016年12月31日）

<有機農産物についての生産行程管理者>

- ・青山太郎（新規・静岡県）
- ・伊賀隠れ里-白井保弘-（新規・三重県）
- ・株式会社マックスファーム（新規・滋賀県）
- ・京和あずま株式会社（新規・京都府）
- ・BIO farm TSU（新規・三重県）
- ・岡崎安心野菜グループ（新規・愛知県）

<有機加工食品についての生産行程管理者>

- ・京和あずま株式会社（新規・京都府）
- ・有限会社ブルーベリーフィールズ紀伊國屋（新規・滋賀県）
- ・有限会社よこや製茶（新規・三重県）

<有機農産物についての小分け業者>

- ・株式会社伊藤通商（新規・三重県）
- ・有限会社スインセリティ（新規・岐阜県）

○審査中案件：1件（2016年12月31日現在）

<有機農産物についての生産行程管理者>

- ・一般社団法人二本松有機農業研究会（組織改編・福島県）

○廃止した認定事業者：6件（2016年1月1日～2016年12月31日）

<有機農産物についての生産行程管理者>

- ・九鬼ファーム株式会社（自己都合）
- ・高山農園（組織改編→岡崎安心野菜グループに）
- ・グリーンボックス有機農業グループ（自己都合）

<有機加工食品についての生産行程管理者>

- ・華陽食品株式会社（自己都合）
- ・九鬼産業株式会社竹成工場（自己都合）

<有機農産物についての小分け業者>

- ・有限会社アグリプラス（自己都合）

○格付実績（2015年4月1日～2016年3月31日）

<有機農産物> 生産行程管理者：817,199kg（前年度：854,895kg）

小分け業者：266,148kg（前年度：310,290kg）

<有機加工食品> 生産行程管理者：118,467kg（前年度：128,533kg）

○有機認定講習会 全34名

- ・第75回 1月18日～19日 於：豊明市 3名受講／3名聴講
- ・第76回 2月28日～29日 於：愛農 13名受講
- ・第77回 5月12日～13日 於：愛農 3名受講／1名聴講
- ・第78回 8月23日～24日 於：愛農 5名受講／1名聴講
- ・第79回 11月9日～10日 於：愛農 5名受講

○見直し会議 6月29日実施

参加者：山本和宏、飯尾裕光、岡野正義、田中祥吾

○内部監査 12月21日実施

内部監査員：田中祥吾

○年次確認調査 全認定事業者の年次の調査を適宜実施

- ・検査員：岡野正義、山本和宏、堀明彦
- ・小山高人を有機農産物の検査員としてリストに追加

○判定会：原則毎週1回実施

- ・小山高人を判定委員のリストに追加
- ・田中祥吾（研修中）

○認定業務者研修 8月16日実施（森館南教室）

参加者：石井康弘、山本和宏、岡野正義、堀明彦、羽間瞳、小山高人、田中祥吾

<業務研修>

- ・過去1年間の法令改正について他

<現地研修>

- ・山口農園（宇陀市）
- ・名張オーガニックファクトリー（名張市）

<外部>

- (独) 農林水産消費安全技術センターによる事業所調査
2月4日～5日 不適合事項、観察事項等なく終了
- 有機 JAS 登録認定機関協議会による公平性委員会
5月25日 神戸市教育会館 [神戸市] (岡野出席)
- 2016年度 有機食品等登録認定機関連絡会議
5月26日～27日 FAMIC 神戸センター [神戸市] (岡野出席)
- 有機 JAS 登録認定機関協議会 年次総会
5月26日 神戸市教育会館 [神戸市] (岡野出席)

収益事業 図書販売と施設設備の運営等

本会の事業推進に資するための農業関連図書の販売と本会本会編集発行の叢書販売、施設設備の運用等を行っている。

収益－1 物品販売

懸案だった大内信一氏の著作が11月に発刊された。年度内の本格的な販売には間に合わなかった。全体としては新企画もなく売上げは伸びなかった。

収益－2 施設設備運用収入

昨年度より進めてきたログハウスの厨房増築がようやく完成し、保健所の許可も取ることができた。本格的な運用にまで至っていないが、次年度の課題になっている。